



立派な教師になって  
子どもたちを育てたい  
**及川 凌平**さん  
米山町齊藤

友人、先生、地域の人たち、そして大切に育ててくれた家族など、多くの人たちの支えがあったからこそ、今の自分がいると実感しています。

私の夢は、子どもと共に成長できる教師になることです。子どもたちが自分に自信を持って成長するためには、寄り添ってくれる教師が必要で。だからこそ、教育への知識を深め、立派な教師になり、次世代を担う子どもたちの豊かな心を育み、教育を通じて自分を育ててくれた登米市へ恩返ししたいと思います。

かつての学友と久しぶりに再会し、懐かしさに思いをはせるとともに、改めて自分たちが大人になったことを感じています。今は、それぞれの道を歩む私たちですが、同じ故郷を持つもの同士、支え合いながら、大人として責任と自覚を持って生きていきます。

お世話になった方々への感謝と思いやりの精神を忘れず、どんな状況にあっても、自信あふれる堂々とした人生を力強く歩んでいきます。

## 二十歳の主張

支えてくれた人に感謝  
人生を歩んでいく  
**菊池 凜**さん  
中田町十字



人生の節目である二十歳を迎え、成長を温かく見守ってくれた地域の人たち、正しい道に導いてくれた先生、そして私を育てて支えてくれた家族に感謝の気持ちが込み上げてきます。

高校時代を思い返すと、新型コロナウイルスが流行し、楽しみにしていた一部の学校行事が中止になったり、部活動に制限がかかったりと、感情を抑え込み、やるせない思いでいっぱいでした。そんな中、高校3年生の冬に、地域の皆さんと学校が協力して花火を打ち上げました。

私にはさまざまな道に進みますが、困った時は助け合い、うれしい時には分かち合える大人を目指し、精一杯努力していきます。

# 令和6年登米市 二十歳の集い

～それぞれの思いを胸に～

「令和6年登米市二十歳の集い」が1月7日、登米総合体育館で開催されました。

式典には、二十歳を迎えた594人が出席。色とりどりの振り袖やかま、スーツに身を包んだ出席者たちで会場は華やかな雰囲気。学生時代を共に過ごした友人たちとの再会を喜び合い、近況報告や思い出話をする姿が見られました。会場前では、実行委員らが、元日に発生した能登半島地震への募金活動を実施。来場者に協力を呼びかけて集まった義援金が被災地へ送られました。

式典で能谷盛廣市長は、「皆さんの未来には無限の可能性が広がっています。勇気を胸に、さまざまなことに挑戦してください」と式辞を述べました。また、実行委員が企画・制作した恩師からのメッセージ動画が上映されると、参加者は笑顔で見入っていました。

出席者を代表して誓いの言葉を述べた三浦朋也さん「米山町後小路」と佐々木楓歌さん「迫町江合」は、「私たちはそれぞれの人生を歩み、大人としての自覚と責任を持ち、夢や目標に向かって日々努力していくことを誓います」と決意を新たにしました。

二十歳という節目を迎えた皆さんは、さまざまな思いと自覚を胸に、人生の新たな一歩を踏み出しました。